

## 統一地方選挙

原 徳 安

三井信託銀行顧問  
(前消防科学総合センター理事長)

本年4月の統一地方選挙とその前哨戦で、消防科学総合センターと縁故の深い二人の新市長が誕生した。岡山市長の安宅敬祐氏(元消防庁防災課長)と下関市長の亀田博氏(元消防科学総合センター常務理事)で、ともに現職を相手とした厳しい選挙を戦い抜いた末の栄冠であり、その優れた識見、豊富な経験、真摯な政治姿勢が市民の共感と支持を集めたものと思われる。ここに改めてお祝い申し上げるとともに今後一層ご自愛のうえ、市政発展のためご尽力されることを念願する次第である。

今回の地方選挙では、環境問題が取り上げられていた。湾岸戦争後のクエートの油井の猛火、近隣諸国を脅かす黒煙、ずぶ濡れの海鳥と原油の流出を毎日見せられては、地球の温暖化、オゾンホール、酸性雨対策からゴルフ場の農薬散布、リゾート開発等の身近な問題まで、幅広く問題提起されるのはやむを得なかった。豊かな社会を裏面で支えるごみの問題も、争点となった。増大するごみを前にして、減量化、分別収集と再資源化、処分地の確保と処理方法の改善等について様々な公約が提示されていた。既に大都市における資源ごみの分別収集(広島市)、資源ごみ回収活動支援とコンポスト化容器の普及(岡山市)、資源サイクルセンター(吹田市)、焼却廃熱のアメニティ活用(東京他)、ごみを減らす課の設置(松戸市)等の事例もあり、市町村の創意と工夫が待たれるところである。

ところで、新市町村長方に是非取り組んで貰いたいことに救急業務の充実がある。戦後、わが国で世界に誇れる業績のひとつに平均寿命の著しい伸びがある。今や日本は、世界の最長寿国と言っても誤りではない。徒に長生きしてもの声もないわけではないが、秦の始皇帝の不老不死の仙薬を東海の蓬莱山に求めた伝説をまつまでもなく、長命は凡人の率直な願いである。ソ連の最近の動揺には、男63歳、女73歳の平均寿命では先進国と10歳の開きがあり、この国では長生きできないとする国民の素朴な政治不信感が根底にあると指摘する評論家長谷川慶太郎氏の説は極めて分かり易い。

さて、この平均寿命を更に伸ばすには、がん、心臓病、脳卒中の三大成人病の克服が待たれるが、不幸にして事故にあった人、重い発作に見舞われた人の救命率を向上することも見逃がせない要点である。この分野では消防の救急隊のお世話になることが多いが、現在の救急隊では心マッサージ等簡易な応急措置しかとれず、欧米と比較して傷病者の救命率が低いことが指摘されていた。今回、救急救命士の制度が創設され、多年要望の強かった心肺停止状態に陥った傷病者に対する除細動、輸液、気道確保等の高度専門的応急措置が、救急現場においても使えるように改められた。早速、5月に消防庁では救急振興財団を設立し、救急隊員に必要な専門研修を行う体制を確保した。また、最新の救急資機材を搭載した高規格の救急自動車の整備も、逐次図られるようである。人的、物的整備が順調に進み、新救急が一日も早く軌道に乗ることを期待したい。

また、このことは、救急基金の設立、救急自動車の寄贈、試験研究の実施などをその業務の柱の一つとしてきた消防科学総合センターとしても、大きな喜びとすることと思われる。